桃豚通信

Vol.3
2000
春号

寒さをものともせず、
厳しい冬を越えて桃豚は元気です。

特集
第9回
BMW技術全国交流会

秋田県鹿角市で開催！全国から341名が参加しました。

養豚を中心とした地域循環型農業への挑戦

桃豚と相性バツグン!!
春野菜「アスパラガス」を使った料理紹介

桃豚と春野菜

人気コーナー
★桃豚の作り手になんでもQ&A
★桃豚新聞 GO!GO!桃ちゃん

簡単に旬の美味しさが味わえる
アスパラガスの豚肉巻き焼き

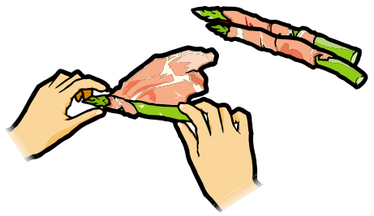
材料 4人分

豚肉(薄切りもも肉)300g
グリーンアスパラガス12本
[調味料]
Ⓐ酒大さじ1　砂糖大さじ1
みりん大さじ1　しょうゆ大さじ3
塩少々　酒小さじ1
しょうゆ小さじ1　サラダ油大さじ2
※Ⓐを混ぜておく。

作り方

1. アスパラガスは根元を落とし、塩少々を入れた熱湯で2分程ゆで、ざるに上げて水気をきる。

2. 豚肉に酒小さじ1・しょうゆ小さじ1をからめ、下味をつけなじませる。
3. 下味をつけた豚肉を1枚ずつ広げて、アスパラガスに斜めに巻き付ける。



4. フライパンにサラダ油大さじ2を熱し、❸を入れてころがしながら中火で焼く。混ぜておいたⒶの調味料を加えてからめる。

春野菜「アスパラガス」のポイントチェック
★穂先がつぼまっているものが良い。
★下まで緑色が濃いものが美味しい。
★保存はペーパータオルに包み、ラップで包んで、立てて保存。

プロの技でおいしさ上昇！
今夜も豚肉

Vol.2
桃豚と相性バツグン！春野菜「アスパラガス」料理

桃豚通販 桃豚の会
新会員募集中
入会金年会費無料！
小坂町の大地で健康的に育てられた十和田湖高原ポークSPF「桃豚」を素敵な特典付きでご購入頂けます。

★会員だけの素敵な特典★
特典❶ SPF「桃豚」を会員価格でご購入頂けます。
特典❷ ご自宅まで配達致します。
特典❸ 「桃豚通信」を配布致します。
※このほかにも特典をご用意しております。

「桃豚の会」ご入会方法
電話にてお申込み下さい。後日、ご入会申込書をお持ち致します。
どなたでも簡単にご入会頂けます。入会金・年会費はかかりません。

お申込み・お問い合せは
有限会社ポークランド「桃豚の会」事務局まで
TEL 0186-29-4008 ご不明な点などございましたら、お気軽にお問い合せください。

十和田湖高原ポーク SPF「桃豚」ってどんな豚？
・SPFとは「特定の病原菌を持たない健康な豚」という意味です。
・抗生物質の投与は一切行っていませんので、安心して食べられます。
・自然を汚さないBMW技術を有効活用しています。
だからSPF「桃豚」は安全・安心・美味しい豚肉なのです！

有限会社 十和田湖高原ファーム
〒017-0201秋田県鹿角郡小坂町小坂字台作1-1
TEL0186-29-4003 FAX0186-29-4004

有限会社 ポークランド
〒017-0201秋田県鹿角郡小坂町小坂字台作1-2
TEL0186-29-4000 FAX0186-29-4002

特集

第9回 BMW技術全国交流会

昨年（平成十一年）十一月十一日から十三日にかけて、大湯温泉「ホテル鹿角」で第9回BMW技術全国交流会が開催されました。鹿角市、小坂町、JAかづのなど農業関係者が（もちろんポークランドも）地元大会事務局として運営にたずさわり、三百四十一名の参加者がBMW技術についての意見を交換し合いました。

JA全農の原耕造氏から「ヨーロッパのガイドラインと日本の農業の展望」と題した講演をいただいたほか、十五名のBM技術協会会員から、BM技術を取り入れた畑作や畜産についての報告がありました。

今回の大会では、地域全体としての循環型農業の取り組みについてたくさんの発表がありましたので、その一部を紹介します。

山形県にある米沢郷牧場の「BMW技術を駆使した自然循環型農業」では、テレビ放送された米沢郷についてのビデオを放映しながら、稲作・畑作・畜産が一体となった農業について報告がされました。

耕種・畜産農家が集まり、農業の商業化を目指す米沢郷牧場代表の伊藤氏

米沢郷には約三百戸の農家が集まり、それぞれ稲作、畑作（サクランボ、畜産（牛・鶏）を営んでいます。BMW技術によって廃棄物（籾殻・糞尿など）を堆肥化・飼料化することにより、肥料や農業などの経費削減、除草や家畜舎清掃などの労働力の軽減が可能になったそうです。また、高齢化が進む農家の作業を手助けする若者による組織づくりなど、農業の商業化を目指しているそうです。

一般家庭から出される生ゴミを中心としたレインボープランの取り組みについて発表する長井市役所　飯沢氏

同じく山形県にある長井市では、市民からの提案を行政がバックアップするという形で、地域循環型農業を「レインボープラン」と名付けて推進しています。行政が生ゴミ回収用にコンテナを購入、各家庭に配付。家庭では

ゴミをきちんと分別し、生ゴミだけが別個に収集され、BMW技術によって堆肥化されます。その結果、家庭から出る生活関連ゴミが約三割減ったそうです。これは、ゴミの埋め立て（焼却した後の灰も含めて）による土壌汚染などの環境問題に、大きく役立っているのではないかと思います。

また、消費者と生産者が手を取り、より良い安心な食品を作ろうとしている、田沢湖にある田口農場からの報告もありました。

田口農場は、秋田県で初めてBMW技術を利用した農場です。実際に視察に行き、牛舎の匂いの無さや、ハエがいないことに驚き、ポークランドがBMW技術を取り入れるきっかけとなりました。

「ブランドでは無く、本当に良いもの、良い環境で育てられたものを食卓に届けてほしい。」という仙台共同購入会からの依頼により、それまで牛だけを育てていた田口農場で、豚の飼育を始めたそうです。餌に生物活性水を入れたり、豚舎の床にBM堆肥を入れて育てた結果、脂肪の質が良い、ビタミンE・B群を多く含んだ、格付け的にも全国平均を上回る良い豚が育ったそうです。環境というものがいかに大切かということを、田口さんは実感したそうです。

生活協同組合　仙台共同購入会
理事長の吉武氏

仙台共同購入会と共同でBMW技術を活用した養豚に取り組んでいる田口農場の田口氏

その他、富山町酪農会の「二年目を迎えたBMとみやま構想」久住町の「くじゅう地球村の取り組み」、また、韓国やフィリピン・ネグロス島など海外からの報告もありました。その中でも、JAかづのの「地域の有機系廃棄物のリサイクル拠点を目指して」、ポークランドの「SPF豚管理におけるBMW技術の有効活用の検証について」と題した報告は、新しい技術として注目を集めていました。

BMとみやま構想について発表する富山町酪農会の鈴木氏

韓国でのBMW技術の現況と今後の見通しについて発表する韓国腐食研究所のハ・ジョン・ヒ氏

今回の交流会は、今まで以上に意図のはっきりした、また内容的に充実したもので、地元農家などの一般参加者の方にも、これからの農業において励みとなるような、大きな成果のある大会だったのではないかと思います。

畜産廃棄物を有効利用した地域循環型農業について報告するJAかづの常務理事の泉谷氏

試験圃場での実験結果を報告するJAかづの営農指導部長の湯瀬氏

BMW技術がSPF豚に及ぼす影響について発表する（有）ポークランド常務取締役の加藤

開催地を代表して挨拶する（有）ポークランド代表取締役の豊下

有限会社 ポークランド TEL 0186-29-4000
BMW技術に関する詳しい情報を知りたい方はお気軽にお問い合わせ下さい。

養豚を中心とした地域循環型農業への挑戦

十和田湖

今回のＢＭＷ技術全国交流会でもみられたように、環境問題が叫ばれる今、地域循環型の農業が大きな注目を集めています。「地域循環型農業」とは何か。簡単に言うと、一般家庭と稲作、畑作、畜産が一体となった農業のことです。現在、ＪＡかづのではＢＭＷ技術を利用し、この「地域循環型農業」を確立しようとしています。その中で大きな役割を果たしているのが「ポークランド」、「十和田湖高原ファーム」と「小坂クリーンセンター」なのです。

ポークランドと十和田湖高原ファームから排出される糞尿は、ＢＭＷ技術を使い、小坂クリーンセンターによって完熟堆肥と生物活性水に変えられます。この時、糞だけではなく野菜農家から出る野菜屑や家庭から出る生ゴミも一緒に堆肥化されます。家庭の生ゴミを堆肥化するためには、各家庭でゴミをきちんと分別しなければならず、私たち一人一人がゴミの分別収集を徹底しようとする意識を持つことが重要となります。これは、ゴミの減量化にもなり、環境を守ることへと発展していきます。

こうして出来た完熟堆肥を水田や畑に使用すると、有機物を多く含む養分の高い土が生まれ、生物活性水を作物に散布すると、害虫がつきにくくなります。その結果、農薬など薬品の使用が最小限に抑えられ、十和田湖や八幡平など、四季を通じて多くの観光客が訪れる鹿角の自然を畜産公害から守ることができるのです。また、農家にとっては薬品を購入する経費の削減や除草などの労働力の軽減にもつながります。

消費者は、農薬などの薬品の使用を抑えた安全な有機農産物を、安心して手に入れることができ、そこから出た生ゴミはまた堆肥として活用されます。

このようにして、一般家庭と耕種・畜産農家が一体となり、環境や人に優しい「地域循環型農業」の輪ができあがるのです。

生ゴミを堆肥化するためには、それを発酵するための糞尿が不可欠です。そして、良い堆肥が無くては有機農業は成り立ちません。そのため、鹿角地域の土壌改良の中核を担っているのが「ポークランド」、「十和田湖高原ファーム」であり、「小坂クリーンセンター」が作り出す、ＢＭＷ技術を駆使した「完熟堆肥・生物活性水」が、地域や農協のやる気を後押しすることになるのです。

地域循環型農業の紹介

家畜の糞尿や、生ゴミを最新式の堆肥発酵処理、尿処理システムにより有効な完熟堆肥、生物活性水を製造し再資源化を図り、これらを耕種農家等へ供給することにより、植物体本来の成育を活性化させ、減農薬・減化学肥料、また地域内での循環が図られ、それによって消費者の求める安全で安心な農産物の供給により、健康な食生活を目指します。

BMW技術とは…

BMW技術とは、科学的なものを用いて特別なものを作り出す技術ではありません。自然浄化作用という、自然に備わるリサイクルの力を利用して処理前の排水を浄化処理し、河川水の200倍ものミネラルを含む生物活性水を作り出す技術です。
BMWは、B＝バクテリア（微生物）・M＝ミネラル（鉱物ミネラル）・W＝ウォーター（水）の略で、土の中のバクテリアと土のミネラルを利用して汚水を浄化します。
BMW技術は、地球の生態系の主役である細菌を活かし、人と共生しようとする画期的な技術です。

八幡平

桃豚の作り手になんでもQ&A Vol.3

小坂クリーンセンター

神田寿紀さん

(21歳)

「僕のアイデンティティーを発揮します」という、哲学的な神田ワールドへとご案内しましょう。

Q 入社したきっかけは?

A 昨年の4月に入社したばかりです。母がクリーンセンターの生ゴミ処理についての新聞記事を読んで、その記事をFAXで送ってきたんです。秋田高専の物質工学科で勉強していたのですが、3月になっても就職が決まっていなかったので…。

Q 仕事の内容は?(苦労することなどは?)

A クリーンセンターで、BMW技術を使った堆肥作りや、排水の処理、管理をしています。苦労することというか、実際社会に出て自分と他人の思考の違いというものを感じました。自分は一方的で狭い視野から物事を見ていたんだなぁ と、仕事を通して痛感しています。

Q 休みの日はどんなふうに過ごしますか?

A 犬(セッター)を飼っているので散歩をしたり、書店巡りをしたりしています。マンガが好きで、いろいろなジャンルのものを読んでいます。

Q アニメ好きだとお聞きしましたが?

(社長の息子(小4)と風の谷のナウシカについて語り合ったという伝説がある…)

A アニメ好きというより映画好きなんです。(アニメ好きと言うとマニアックな感じがするのでやめてください) いろいろなジャンルのものをたくさん見ています。今まで一番印象に残っている映画は、ロバート・デニーロ主演の「ディアハンター」で、ベトナム戦争に駆り出された農村の青年の話です。その青年は狩りが好きで、狩りの名手だったのですが、戦争から帰ってからは狩りが出来なくなってしまうんです。絶対に外すはずの無い距離にいる雄鹿を撃つことが出来ずに「これぞいいんだろう!」と叫びながら雄鹿を逃がすシーンが一番好きです。

Q 身近な所で二千年問題などありましたか?

A 恋人がいないことです。大いに問題があります。(笑)

Q 二十一世紀を迎えるにあたっての目標は?

A 二十一世紀は、最近高まっている環境意識がもっと私たちに浸透してくると思います。というのは、燃費の良い車に乗るとか、資源の回収・再利用を心がける等、今のところ行為でしかないわけですが、そのエコ的な行為の積み重ねが、ヒトとしての生き方を変えて、二十一世紀はその生き方が問われる時代になるのではないかと思います。堆肥や生物活性水を作るのに用いられているBMW技術、自然浄化法による排水処理が、そういった時代の先駆けになるように、仕事に励みたいと思います。

Q 最後に一言

A ナウシカを読もう!

次にインタビューする人を紹介して下さい。

十和田湖高原ファーム分娩部の佐藤雅紀さんをお願いします。

編集者より一言

日に日に春めいてまいりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか?

さて、昨年8月に発足した桃豚通販、桃豚の会にもおかげさまで少しずつではありますが、注文も増え始めており、ご入会頂いた皆さんには大変、感謝致しております。桃豚を直接配達することで、お客様から商品に対する率直な意見を聞くことができ、生産者と消費者との距離が一歩近づいたように思います。(自分だけかな?)

とかく隠し事の多いご時世、私達はこれからも生産者の顔がみえる、桃豚、を消費者に提供し続けようと思う今日この頃です。

石川 保

(桃豚が育つ農場周辺は雪がまだ融けるはずもなく、遅い春を待ちわびております。(例年、5月の連休あたりでないと雪は完全に消えません!))

「ミレニアムだからプレミアム」と大騒ぎしていた二千年も、Y2K問題も何もなく訪れ、気がつけばもう新年度へ突入しようとしていますが、皆さんいかがお過ごしですか?風邪などひいていませんか?風邪をひいたら桃豚ですよ。(しつこい?)

新しい世紀に向けて、新しいBMW技術を駆使したポークランドはまさに、時代を先どるニューパワー」かもしれませんね。(今回だじゃれが多いな)

今回特集した「地域循環型農業」。私たちとその子供たちの今と未来のこと、身近な環境問題として、これからも関心を持っていきたいと思いました。

二十一世紀の明日はどっちだ!?(十古いよ)

関 典子

(今回の「桃ちゃん」ファンの方(約一名)へのサービス版…という訳でもないんですけどね…)